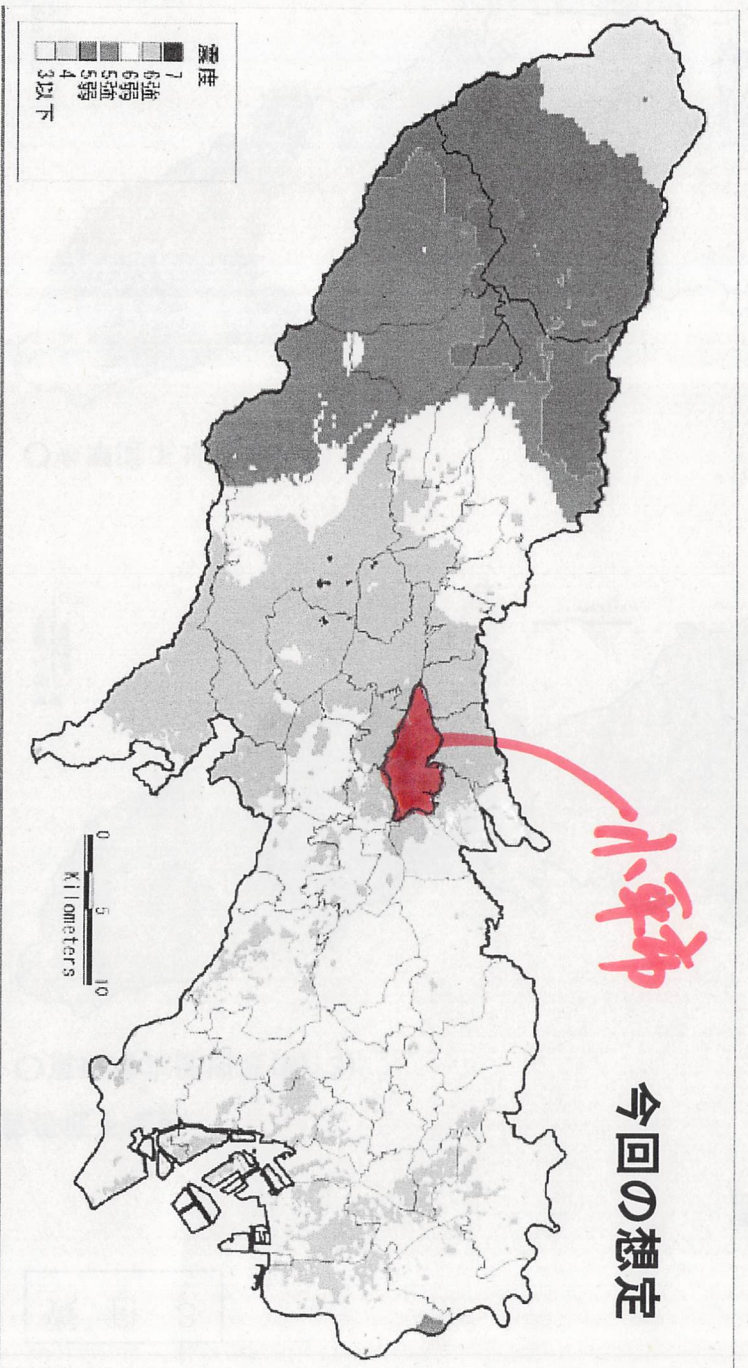
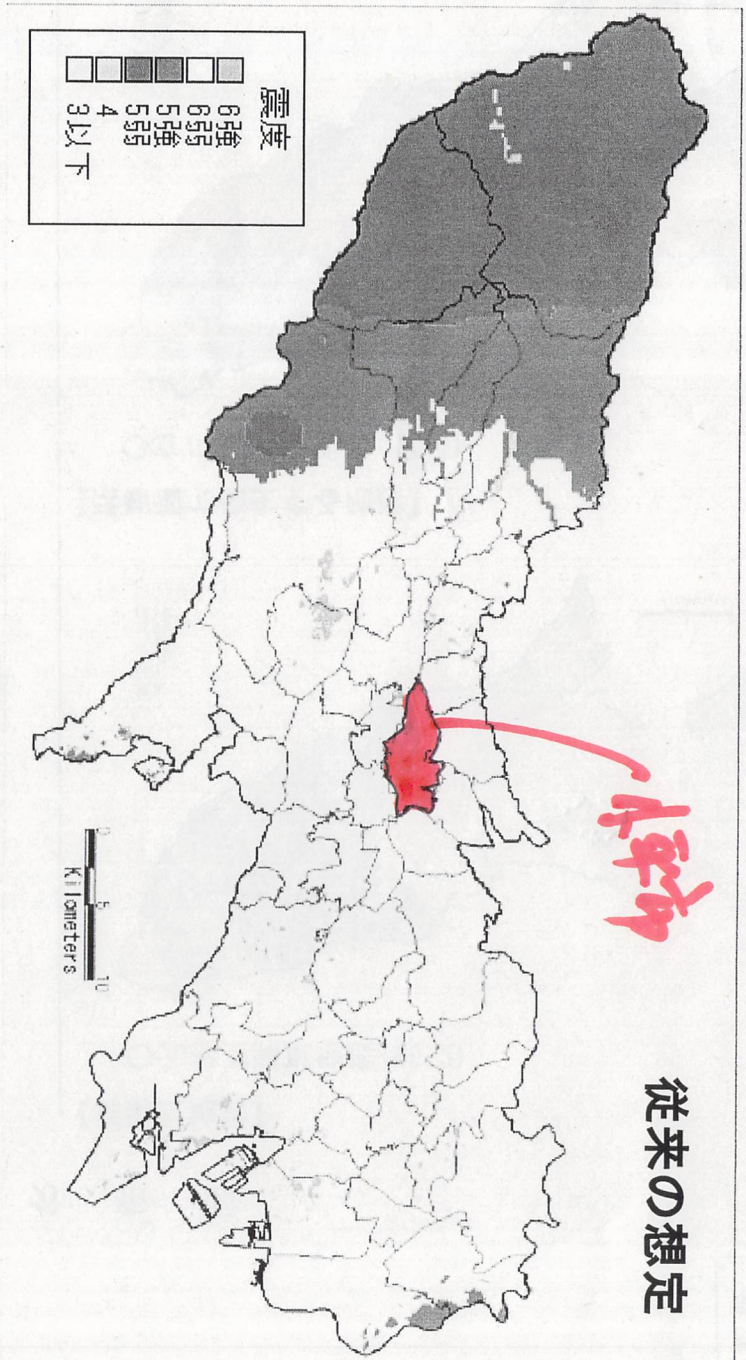


【首都直下地震】  
○多摩直下地震(M7.3)



### 3 小平市における被害想定の特徴

資料2に示すとおり、今回の想定は従来の想定と比べると各項目について増加している傾向にあり、主な特徴は次のとおりである。

#### (1) 全壊する建物の増加

首都直下地震の震源が従来の想定より浅く想定されたことから、全壊する建物棟数が大きく増加している。(想定 of 震度分布については、資料3、資料4のとおり)

#### (2) 焼失建物棟数の増加

震源が浅くなったこと、算出する手法がクラスター方式に変更されたことから、焼失建物棟数が大きく増加している。

#### (3) 死者数、負傷者数及び避難者数の増加

上記(1)、(2)の増加を要因とし、死者数、負傷者数及び避難者数が増加している。

### 4 都の防災対策の取組状況について

#### (1) 耐震化の推進

#### (2) 木造住宅密集地域の整備

#### (3) 津波対策

#### (4) 自助・共助の強化

### 5 都の今後の対応

平成24年 4月18日 被害想定 of 発表

9月頃 都地域防災計画修正案の取りまとめ

11月頃 東京都防災会議において地域防災計画を修正公表

※ 市では都地域防災計画との整合性、連携を考慮し見直しに着手する。

## 東京都の新たな被害想定による小平市の被害想定 概要について

### 1 被害想定の見直しの要旨

東京都防災会議は、平成 2 3 年 3 月 1 1 日に発生した東日本大震災での経験を踏まえ、首都直下地震など東京を襲う大規模地震に対して、より確かな備えを講じていくため、平成 1 8 年 5 月に公表した被害想定の見直しを行った。

今回の被害想定は、客観的なデータや最新の科学的知見に基づいて、可能な限り、実際に起こりうる最大の被害像の把握に努めたものである。

### 2 見直しの特徴

資料 1 のとおり

#### (1) 地震モデルの見直し

従来の首都直下地震の 2 モデル（東京湾北部地震、多摩直下地震）に加え、活断層で発生する地震を想定した「立川断層帯地震」と大きな津波をもたらしたとされる元禄関東地震をモデルとした「元禄型関東地震」を加えて 4 モデルとした。

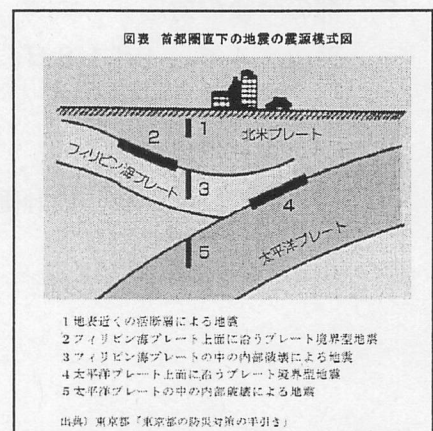
#### (2) フィリピン海プレート上面の深度の見直し

被害想定における首都直下地震は、右図表の 2 において発生する地震を想定している。

今回の想定では、フィリピン海プレート上面の深度が従来の想定より浅いという最新の知見が反映されている。

震源の深さの比較

| 平成 1 8 年 5 月公表   | 平成 2 4 年 4 月公表   |
|------------------|------------------|
| 深さ 2 5 ～ 5 0 k m | 深さ 2 0 ～ 3 5 k m |



#### (3) 火災などの想定手法の改良

今回の被害想定において、各種被害の項目の算出方法が、より高度化されている。

特に火災に関する手法は、従来の想定では、2 5 0 mを一片としたマクロ的な区域での算出であったのに対して、今回の想定では、建物 1 棟 1 棟の構造や配置を基に延焼状況をシミュレーションし、延焼拡大する範囲（延焼クラスター）を定めて焼失棟数を算出する手法が採用されている。

